

スカパーJSAT グループ 2024 年度番組審議会（議事要旨）

（スカパーJSAT 第 42 回、スカパー・エンターテイメント第 35 回）

開催年月日：2025 年 3 月 6 日（木）

開催場所：スカパーJSAT 株式会社 役員会議室

出席者

（審議委員）

委員数：7 名 /出席委員数：6 名 （欠席：草野満代委員）

審議委員長：高畑 文雄

委 員：二宮 清純

委 員：山本 浩二

委 員：田中 里沙

委 員：安田 洋祐

委 員：マッコイ 斉藤

（スカパーJSAT グループ）

米倉 英一：スカパーJSAT(株) 代表取締役 執行役員社長

松谷 浩一：スカパーJSAT(株) 取締役 執行役員専務 メディア事業部門長

奥永 孝仁：(株)スカパー・エンターテイメント 代表取締役社長

明石 静 ：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部長

加藤 大 ：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ事業部長

山田 巳奈：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ事業部 事業管理チーム長

（報告者）

寺島 恵里香：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ事業部 編成制作チーム

奥永 孝仁 ：（株）スカパー・エンターテイメント 代表取締役社長

（陪席）

中川 大介 ：スカパーJSAT(株) 執行役員 メディア事業部門 光アライアンス事業本部長

堀 智一 ：スカパーJSAT 株式会社 メディア事業部門 メディア事業本部長代行

萩原 健太郎：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ事業部 編成制作チーム長

山口 純也 ：(株)スカパー・エンターテイメント 放送推進部長

（事務局）

早出 真知子 / 齋藤 収： 同 コンテンツ事業部

<番組審議>

審議番組：「真中満が行く！」

報告者：寺島 恵里香

◆放送概要

放送・配信日：2021 年 8 月に番組開始。

2024 年は 4 月～8 月に毎月 1 本、2025 年 1 月に 2 本、計 7 本新作を放送。

2025 年 3 月～毎月 1 本新作を放送予定（放送尺は 30 分あるいは 60 分）

放送チャンネル：スポーツライブ+（配信：スカパー！番組配信）

◆番組概要

真中満氏が全国各地の球場に行き、監督やコーチ、選手をはじめ、球場を盛り上げようと奮闘する裏方スタッフにもスポットを当て、球場グルメやグッズショップ、イベントなど知られざる球団の魅力をお届けする。真中満氏が体感した魅力を伝えることで、特集回の球団ファンでなくても「この球場に行ってみたい！」と思う番組作りを目指す。

また、野球オフシーズンには特番やスピンオフとしてゴルフ企画や旅企画などを制作し、野球ファン層以外にも満足いただけるような番組作りを実施。真中満氏の魅力を引き出すため、進行役を本人が務める。

オフシーズンには特別ゲストを招いた公開収録イベント「真中満が行く！伝説ライブ」を開催し、ファンと直接コミュニケーションを図っている。

【出演者】

出演：真中満

過去出演ゲスト：古田敦也、石川雅規（東京ヤクルトスワローズ）、坂口智隆、五十嵐亮太、青木宣親、
稲村亜美、坂口理子（元 HKT48）、川上千尋（NMB48）、うえむらちか、他

◆番組企画意図

コロナ禍の 2021 年に観客制限や外出制限の影響で野球場に足を運ぶファンが減少。そこから、球場の魅力を紹介し「野球場に行こう！」と思ってもらえるような番組作りを模索した。

野球場に行く人、つまり“野球コアファン”を増やすことで、最終的にスカパー！プロ野球セットの契約に貢献することを狙っている。

スポーツライブ+で放送するプロ野球コンテンツのお試し番組として、無料視聴できる番組。また、プロ野球全球団を平等に扱う番組として、幅広いプロ野球ファンに向けた内容となっている。

◆審議委員会からのご意見

- 真中さんのテンポが良く、番組がさくさく進んでいく印象を受けた。本当に一緒に球場に行って友達とおしゃべりしているような親近感のわく番組になっている。
- 球場に行っても自分たちの席の周辺しか知らないが、この番組には球場を立体的に見せる魅力がある。
- 真中さんの野球評論家としての視点が今回あまり見られなかった。練習見学シーンなど、選手の技術や戦術について真中さんが詳しく解説するコーナーを設けるなど野球評論家としての視点での評論があると、野球ファンの方に注目される構成になる。
- 野村さんに代表されるように多くの野球解説者は「野球は 18.44 メートルでピッチャーとキャッチャーで決まるもの」

という考えが多いが、今後の番組制作で外野手出身監督の視点を取り入れると面白い番組になる。

- 真中さん自身が語った過去のエピソードや選手との関係性が多種多様で、場面転換も多かったため、野球や選手たちに詳しくない人でも見やすい番組になっている。
- 最近、つば九郎の中の人々が亡くなりましたが、過酷な労働環境が原因ではないかと言われている。これはこの番組に限ったことではなく、スポーツ業界全体で考えるべき話かもしれない。今までは人気のマスコットを消費する立場でしたが、働く中の人のことを配慮した番組づくりも求められていると感じた。
- 明治神宮球場はもうすぐ 100 周年を迎える。明治神宮外苑エリア全体をリニューアルする計画が進んでおり、新球場が建設されることになる。アマチュア野球の聖地でもあり、愛着のある球場の特集となっており、真中さんの進行役などキャスティングも良かった。
- 野球ファンには球団ファンと球場ファンがいる。球団の魅力と球場の魅力があるはず。プロ野球中継においても球場の魅力を発信することが重要である。例えば、明治神宮球場には外野が低く見え、マウンドが高く見えるという特徴があるが、球場は 12 球場すべて同じではなく、それぞれ個性があり、欠点もあれば長所もある。それぞれの球場に隠された魅力を深掘りして番組制作に活かすことで、より面白くなるのではないかな。
- 番組内のサイドスーパーが見にくく、テロップの入れ方を工夫した方が良い。情報が渋滞している印象を受けた。ナレーションの入れ方も工夫した方が良い。取材で選手への感謝の言葉が多すぎて、視聴者に単調な印象を与えている。感謝の言葉を減らし、選手のエピソードを中心にナレーションを構成して最後に「ヤクルトスワローズ応援しています」で締め括る程度で良いのではないかな。

➡ ご意見を参考にし、スポーツライブ+の野球ファンの方により喜ばれる番組作りに邁進させていただきます。

<報告事項>

スカパー・エンターテインメントの番組審議について

報告者：奥永 孝仁

<報告内容>

（株）スカパー・エンターテインメントでは、衛星基幹放送事業者として、2K の 6 チャンネルを 110 度上で、また衛星一般放送事業者としてスカパー！プレミアムサービス計 134 チャンネルを運営している。

2019 年上期より内規・判断基準を明確化。LEVEL1「様子見」、LEVEL2「要注意」は対応不要、LEVEL3「要対応」は放送を見合わせる等の対応をとるべきとの基準を策定し、番組供給事業者へも説明をしている。

前回番組審議会後に対応した番組関係者による不祥事等の考査事例について（2024 年 3 月以降 5 案件）
及び自主放送・配信番組の考査対応について（1 件）

グループ内でのコンプライアンス対応については、コンテンツ事業部内で番組と CM の考査を実施。案件発生の場合、対応案を作成、考査担当と確認の後、総責任者が最終決定をし、放送事業者や権利元等への対応を図る運営を行っている。

また、自主放送番組や自社制作の配信番組についても考査を行っている。

以上